2016年ワールドユースデークラクフ大会
公式日本巡礼団

Krakow WYD 2016

「あわれみ深い人々は、幸いである、その人たちはあわれみを受ける」

（マタイ5・7）

2016年のワールドユースデーは、クラクフ（ポーランド）で開催されます。
大会期間　2016年7月26日～7月31日

Krakow WYD 2016 krakow2016.com

WYDクラクフ大会公式 HP
http://www.krakow2016.com/

ワールドユースデー（WYD）とは

ワールドユースデー（WYD）は、国連が1985年を「国際青年年」と定めたことを受け、前年1984年「あがないの特別聖年」の閉会ミサで、教皇ヨハネ・パウロ二世が、青年たちにローマへと集うように呼びかけたことにはじまります。その後、毎年「受難の主日（枝の主日）」が「世界青年の日」と定められ、2～3年ごとに世界各地でWYDの世界大会が開催されるようになりました。

「世界青年の日」が受難の主日に設定されているように、この大会は世界中の若者がひとつになり、教会の本質であるキリストの受難と復活の神秘を味わうことと深く結びついています。ひとつの信仰を持つ青年たちが世界中から集い、出会いを喜ぶ祭典としての要素だけではなく、回心に始まり、キリストの受難と復活の神秘を祝う巡礼の旅でもあるのです。

Contents

Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

　また教会と社会にとってWYDは、若者に目を向け、将来を担う若者に信頼と希望を置くことの大切さを確認するきっかけになるのです。

1985年　ローマ（イタリア）
1987年　ブエノスアイレス（アルゼンチン）
1989年　サンチャゴ・デ・コンポステッラ（スペイン）
1991年　チェンストホーヴァ（ポーランド）
1993年　デンバー（アメリカ）
1995年　マニラ（フィリピン）
1997年　パリ（フランス）
2000年　ローマ（イタリア）
2002年　トロント（カナダ）
2005年　ケルン（ドイツ）
2008年　シドニー（オーストラリア）
2011年　マドリード（スペイン）
2013年　リオデジャネイロ（ブラジル）
2016年　クラクフ（ポーランド）

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団　事務局

2016年 ワールドユースデー クラクフ大会
公式日本巡礼団 運営委員会

WYD 本大会スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
	7月25日	7月26日	7月27日	7月28日	7月29日	7月30日	7月31日
午前	到着		司教によるカテケージス 「道の途中のカテケージス」			タベの祈りの会場への徒歩巡礼	派遣ミサ
午後	到着	召命センター ユース・フェスティバル					教皇とボランティアの集い
夜	到着	開会ミサ	ユース・フェスティバル	教皇歓迎式典	十字架の道行	教皇と夕べの祈り	

主要なイベント

ワールドユースデーのプログラムには、数日間に渡る教皇が参加する主要なイベントに加えて、典礼、カテケージス、コンサート、パフォーマンス、世界中からの固有な団体、各種活動団体の集会といった霊的および文化的なイベントもあります。

主要なイベントは、ワールドユースデーの最も重要な集まりです。若い巡礼者たちは、そこで信仰の偉大な祭典を共に体験します。2016年クラクフ大会では、下記のような予定となっています。

開会ミサ（7月26日火曜日）

ワールドユースデーは開会ミサから始まると、現地の司教は述べています。開会ミサでは、大会の国際的な特徴が強調され、世界中から集まる青年を受け入れる開催国が紹介されます。また、悩み、迷っている人たちも最終的に覚悟を決め、ワールドユースデーに参加するように促されます。2016年WYDクラクフ大会の開会ミサは、2016年7月26日火曜日の午後にクラクフで行われます。

教皇歓迎式典（7月28日木曜日）

教皇との最初の出会いは、大切な瞬間です。キリストの後継者を迎え、共に祈る機会となる教皇歓迎式典は、特別な喜びをもたらします。式典の中で、私たちは神のみことばに耳を傾け、教皇の最初のスピーチを聞きます。式典は、国際的なものとなります。WYDクラクフ大会で最初に教皇に出会うのは7月28日です。歓迎式典では、開催国の青年に参加者の列に加わるようにいつも勧めています。

十字架の道行（7月29日金曜日）

金曜日には、WYDの回心の特徴を示す十字架の道行が行われます。ワールドユースデーの十字架はこの道行の最中に行列で運ばれ、青年たちが街の中の指定された経路をたどって、信仰をあかしします。時には、十字架の道行が街の主な箇所で同時に行われることもあります。世界中から集まる青年が、クラクフで十字架につけられたイエスと出会います。この道行は、2016年7月29日に行われます。

教皇と共に夕べの祈り（7月30日土曜日）

主要なイベントの中で最も個人的な一時は、教皇との夕べの祈りです。それは、他に類をみない祈りの時であり、キリストとの出会いの時もあります。それは完全に集中していながら、深い喜びに包まれた雰囲気の中で行われます。そのすべてが、青年のための、青年と共に行うイベントであるWYDの特徴を際立たせます。2016年7月30日土曜

Contents

Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

日、クラクフ大会の参加者は至聖なる秘跡の前で教皇と共に祈りを捧げます。

派遣ミサ（7月31日日曜日）

2016年7月31日は、主要イベントの最終日であり、教皇司式の派遣ミサが行われます。このミサは、すべての集まりのクライマックスとして、WYDの荘厳なまとめとなります。このミサにおいて教皇は、青年を世界中に派遣します。最後のお告げの祈りの際に、次のワールドユースデーの日程と場所を教皇が発表することが伝統となっています。

その他のイベント

カテケージス（水曜日、木曜日、金曜日）

カテケージスは、世界中から集まる司教によって、異なる言語で行われます。司教は山上の説教の教えについて巡礼者に説明します。「憐み深い人々は幸いである、その人々は憐みを受ける。」（マタイ5：7）は、クラクフで開催される第31回ワールドユースデー大会のために教皇が選んだテーマです。カテケージスの集いは、すべての青年が参加できるように、町中の教会や選ばれた施設で行われます。
カテケージスの際、司祭は、毎朝行われる赦しの秘跡の意味を青年に教えます。すべてのカテケージスの集いにはミサも含まれます。

ユース・フェスティバル（火曜日、水曜日、木曜日、金曜日）

宗教的、芸術的、文化的プログラムは、3日間のカテケージスが行われる日の午後と夜の中で、主要イベントが開催されていない時間に行われます。ユース・フェスティバルは、芸術的、宗教的、霊的な特徴のあるオープンで自由な活動によって構成されます。WYDのこの側面は、コンサート、展示会、ワークショップ、スポーツイベント、演劇イベント、その他イベントに巡礼者が参加する機会を提供します。ユース・フェスティバルは、巡礼者のために、巡礼者が準備します。すべての参加者が、観客としてだけでなく、アーティストや運営側としての参加する機会を与えられます。

さまざまな共同体、修道会、宗教活動が、ワールドユースデーのユース・フェスティバルの霊的な側面を担当します。2016年には、クラクフの教会やその敷地、広場、公園、裁判所、体育館、スタジアム、文化的施設が、ポーランドと世界中から集まるグループの祈りと福音宣教の集いの会場となります。

召命センター（火曜日、水曜日、木曜日、金曜日）

召命センターでは、修道会、カトリック学校と大学、宗教関連出版社、宣教団体、国内外の運動や共同体の活動内容が紹介されています。

召命センターの目的は、若い巡礼者に、教会における自分の召命を達成するための様々な方法を示し、神が彼らの人生に期待するものは何かという問いかけの答えを探すように促すことです。召命センターはまた、教会の霊的豊かさに慣れ親しむ機会を巡礼者に提供します。

教皇とボランティアの集い（日曜日）

教皇は毎回、開催国を発つ直前、ワールドユースデー大会の最後にWYDの運営に欠かせない人々と会います。日曜日の午後、教皇は、世界中から来た数千人ものボランティアの方々の貢献と奉仕に感謝します。教皇の存在と親しさは、彼らの素晴らしい働きへのねぎらいとなります。

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団　事務局

WYD 2016年クラクフ大会のテーマ

「あわれみ深い人々は、幸いである、その人たちはあわれみを受ける」（マタイ5・7）。これが2016年ワールドユースデークラクフ大会のテーマです。イエスがガリラヤ湖畔の山上で告げた説教にある真福八端（八つの幸い）の5つ目を、教皇フランシスコは選びました。イエスの教えの中心である真福八端の重要性を明らかにするためです。イエスは最初の説教で、神の国に近づくための8つの模範になる資質を挙げています。

クラクフという町とこのテーマが選ばれたことによって、私たちはいつくしみの光にふれます。イエスが、クラクフのワギエフニキで聖ファウスティナにご出現されてから、この地は神のいつくしみの賛美の中心地として広く知られ、普遍の教会へと光を放っています。若い巡礼者たちは、イエスがご出現された場所、聖ファウスティナの墓、聖ヨハネ・パウロ二世が世界を神のいつくしみに委ねた聖地を、きっと訪れたいと思うでしょう。

真福八端の5つ目ほど、教皇フランシスコの最初の2年間の教皇職をよく表しているものはありません。この間教皇は、神の人間への愛と、お互いをいつくしむことの必要性を教会に示そうと力を尽くしました。

教皇フランシスコは、リオでアルゼンチンの青年たちに面会した時に、次のように助言しました。「真福八端をお読みなさい。皆さんの助けになるでしょう。」と。私たちの努めは、**真福八端の教えを読み返す**ことです。教皇は、八つの幸いの中から3つを続けて選びWYDのテーマとしました。教皇挨拶の中で毎回詳しく取り上げ、神学的な事柄に解説を加えた上で、次年のための霊的な課題を青年に与えています。

「真福八端をお読みなさい。皆さんの助けになるでしょう。」

教皇フランシスコ　リオデジャネイロ

Contents

Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

心の貧しい人々は、幸いである、
天の国はその人たちのものである。 **2014**

2015 心の清い人々は、幸いである、
その人たちは神を見る。

あわれみ深い人々は、幸いである、
その人たちはあわれみを受ける。 **2016**

全てのWYDでは、開催地特有の霊性に注目し、聖書の教えの一つに焦点を当てます。それは、ワールドユースデーの創始者であり守護者でもある聖ヨハネ・パウロ二世が始めたことです。中心になるテーマは、WYDの準備段階から、大会の中心行事、つまり司教のカテケージス、教皇メッセージ、説教に至るまで取り上げられ、若者たちはずっとテーマと共に過ごすことになります。

「12人の弟子たちを派遣する際、イエスは彼らにいいます。「帯の中に金貨も銀貨も銅貨も入れて行ってはならない。旅には袋も二枚の下着も、履物も杖も持って行ってはならない。働く者が食べ物を受けるのは当然である」（マタイ10・9－10）。福音的な貧しさは、神の国が広がるための基本条件です。わたしがこれまで見た中でもっとも美しく自然な喜びは、執着するものがほとんどない貧しい人の喜びです。」（第29回2014年「世界青年の日」教皇フランシスコ　メッセージ）

※聖書の引用は原則として日本聖書協会『聖書版）を使用しました。ただし、本文に合わせ、漢字・仮名の表記を一部変更したことをお断りいたします。

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団　事務局

2016年 ワールドユースデー クラクフ大会
公式日本巡礼団 運営委員会

WYD 2016年クラクフ大会の祈り

いつくしみ深い父なる神よ、
あなたは、御子イエス・キリストのうちにお示しになった愛を、
弁護者である聖霊によってわたしたちに豊かに注いでくださいました。

世界とすべての人の未来を今日、あなたにゆだねます(1)。
とくに、あらゆる言語、民族、国の若者をあなたにゆだねます。
今日(こんにち)の複雑な社会を歩む若者たちを守り導き、
クラクフでのワールドユースデーの経験が豊かな実を結ぶよう恵みをお与えください。

天におられる父よ、
わたしたちが、あなたのいつくしみの証し人となれるようにしてください。
疑いのあるところに信仰を、失望している人に希望を、
無関心に陥っている人に愛を、過ちを犯した人にゆるしを、
不幸せな人に喜びを伝える術(すべ)を教えてください。
あなたがわたしたちのうちにともしてくださった
いつくしみ深い愛の灯(ともしび)が、
多くの心を回心へと導き、地の表を新たにする炎となりますように。

いつくしみ深い母マリア、わたしたちのためにお祈りください。
聖ヨハネ・パウロ二世、わたしたちのためにお祈りください。
聖ファウスティナ、わたしたちのためにお祈りください。

---
(1)2002年8月17日クラコフ　イエスの憐れみの巡礼地クラコフ記念ミサの説教より

Contents

Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

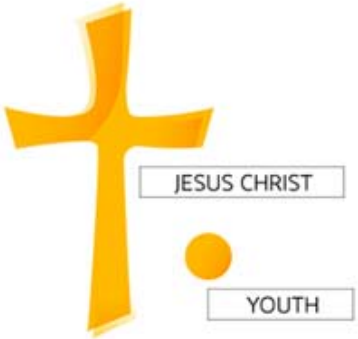
〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団 事務局

WYD2016 ロゴ

集いの主役



ワールドユースデーの主役は、「キリスト」と「青年」です。このイベントの核心は、神と出会い、人々と出会うことです。そのため、十字架のシンボルがあり、イエスを示します。以前のＷＹＤでも使用されたことがあるように、イエスの内側にある中央の円は青年を示します。

集いの場所

青年が集う場所は、ポーランド全土で、特にクラクフは、神のいつくしみの使徒であり、ＷＹＤの創立者である聖ヨハネ・パウロ２世の故郷です。ポーランドは、聖ファウスティナの生まれ育った場所でもあり、イエスは彼女に何度も出現し、あわれみの聖母の賜物を託しました。クラクフそのものが、聖ヨハネ・パウロ２世が昔よく言っていたように、神のいつくしみの信仰の中心です。

ロゴでは、ポーランドの国境が赤で示され、青年を示すのと同じ円で、クラクフが示されています。

集いのテーマ

第３１回のワールドユースデーのテーマは、「神のいつくしみ」です。いつくしみのイエスのイメージを直接表現し、赤と青の炎は、テーマを反映したものとなっています。

聖ファウスティナは、日記の中で「衣服の下から、胸のすぐ横から描かれるものは、大きな２本の光線で。一つは赤、もう一つは青白い光線です。」と表現しています。同様に、ロゴの構

Contents

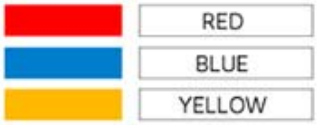
Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

成部分は、ワールドユースデーに集まった青年を清め、燃え立たせる恵みを表現しています。

色



クラクフ2016のロゴの色は、赤、青、黄色であり、クラクフ市のオフィシャルカラーであり、その紋章の色です。

祈りの結果としてのインスピレーション

ロゴを制作する状況は普通ではありませんでした。バチカンで行われた教皇ヨハネ・パウロ２世と教皇ヨハネ23世の列福式に参列して、モニカ・リプチンスカは、ポーランドの教皇のお墓の前で、こう祈りました。「パパ様、私にはインスピレーションが必要です。神様がお望みなら、どうぞ、私がそれを受けることができるようにお取次ぎをお願いいたします。」
「それは具体的なお祈りでした。そして、応答がすぐに訪れました。」とモニカは言います。「その日の夜、ワルシャワの青年司牧の事務所に最終バージョンのロゴを送付しました。」

デザインの最終段階で、美術学校の卒業生であるエミリア・ピザと一緒に作業しました。エミリアが、ロゴの究極的な光と最終的な雰囲気を追加しました。彼女にとって、ＷＹＤクラクフのロゴは、私たちすべてに自由に提供されている十字架からの救いがまず第一に示され、また、無限の神のいつくしみが私たち自身の不完全さをすべて洗い流してくれることが示されるべきだと考えました。

ロゴデザイナーのモニカから次回のＷＹＤの参加者へのメッセージです。

来てください。ワールドユースデーでは、あなたのバッテリーを充電できます。私のバッテリーはアクティブに活動中で、満タンな状態です。コパカバーナビーチの祭壇において、主イエス・キリストにすべてをゆだねました。今でも、その瞬間のことを感謝することを望み、奉仕する必要を感じています。

ＷＹＤロゴデザイナー　モニカ・リプチンスカ

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団 事務局

WYD 2016年 テーマソング

https://www.youtube.com/embed/eZRsoPmeZXk?rel=0（外部リンク）

第31回ワールドユースデー　クラクフの公式テーマソングは、「憐み深い人々は幸いである」です。この歌は、クラクフに送られた９４曲の中から選ばれました。作者は、クラクフに住む音楽家ヤクブ・プリチャルツです。

歌詞は、聖書に基づいた言葉が詩的なフレーズで表現されています。歌詞は、詩編121（120）からの引用で始まります。慈しみ深い主が私たちを見守ってくださっていて、「いまもいつも」人類と共にいてくださるという約束を実現されるという平安と確信を私たちの心に注ぎ込むものです。

最初の節で、旧約聖書からの引用の真ん中に、神は慈しみ深いと表現されています。次の節では、ルカによる福音書の「迷える子羊」のたとえ話（ルカ15：1-7）が用いられ、ただ一人の人を充実した人生に立ち返らせるための絶え間ない神の働きへの希望をもたらします。たとえ話では、誰でも罪人が回心することにより、天にもたらされる偉大なる喜びをイエスは約束します。十字架の死を通して、イエスは新しい命への道を私たちに与えます。私たちのために流された聖なる御血のおかげで、救いの永遠の計画を人類にもたらしてくださいました。

コーラスの部分は、マタイによる福音の「山上の説教」（マタイ5：3-10）で初めて語られた幸福の教えのうち、5つ目の言葉からなります。「憐み深い人々は、幸いである、その人たちは憐みを受ける。」これは、聖ファウスティナ・コヴァルスカによってもたらされた慈しみのメッセージの街であるクラクフで開催されるワールドユースデーのテーマでもあります。

３節は、詩編130「深い淵の底から」からの引用を言い換えています。「主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら/主よ、誰が耐ええましょう。/しかし、赦し

Contents

Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

はあなたのもとにあり/人はあなたを畏れ敬うのです。」神様の私達へのまなざしは、私たちが隣人との関係のうちに、慈しみを持って接する態度を持つための導きとなります。

次の歌詞は、ケリグマ（福音の基本的真理のまとまり）の重要なポイントの意味を伝えています。十字架上で死に、葬られ、復活されたキリストが示される究極の救いを示しています。そして、信仰を通して、キリストが私たちの主であり救い主であるということを受け入れるということも示しています。

聖歌のブリッジ部分は、イエス・キリストの復活によってもたらされた希望と信頼の命を生きることを励ましています。

ヤクブ・プリチャルツ氏は、クラクフに住む音楽家で、テーマソング「憐み深い人々は幸いである」の作曲と作詞をしました。教育によって弁護士になり、情熱によって音楽家になりました。Dobry jest Pan (良き方は主である)、Bonum est praestolari (ラテン語　待つことはよいこと)、 Uczta Baranka (仔羊の食卓) 、Święta Dziewico (おお　聖なる処女)、Amen（アーメン）、Godzien (素晴らしい方) 、Nie umrę (私は死なない)といった聖歌を作曲しています。妻と娘と共に、「Głos na Pustyni（砂漠の声）」というクラクフの人たちの共同体に参加しています。コンテストに応募する時、封筒には申命記31：19を書きました。この節に、聖歌の作者は、「次の歌を書き留め（なさい）」との言葉を見出しました。

「WYD2016の聖歌を作曲することを含む私の夢を達成するための神様の保護と助けを神に祈っているときに、このみことばを読みました。」と作者のヤクブ・プリチャルツ氏は言います。加えて「神様が約束してくださったと思いました。約束は神様がモーゼに答える次の節にあります。「わたしは、心に知恵あるすべての者の心に知恵を授け、わたしがあなたに命じたものをすべて作らせる。」（出エジプト記31：6b）この励ましを信頼して、ギターを手に取り、コーラスの部分ができあがりました。」
作者のヤクブ・プリチャルツ氏

クラクフのカリスマ運動の2つの共同体（「荒れ野の声」と「讃美と宣教の共同体ヤンキ」）のメンバーが、聖歌の制作に参加しています。

「制作中にたくさんのことがありました。部屋が寒すぎたため、バイオリン奏者の手がかじかんでいました。私は、録音しなければならない、まさしくその時に具合がよくありませんでした。大量のティッシュペーパー、コロイダルシルバー（訳注：水の中にイオン化した銀の入った天然の抗生物質）、ミネラルウォーターを消費しました。普通の状況なら、この録音はありえませんでした。」
カタジーナ・ボグシュ、ボーカル

「聖歌の制作中は、ずっと、確かに神様が祝福してくださっている実感がありました。以

前に体験したプロジェクトでは体験したこと
がありません。神様の祝福は、いつも違った方法で起こります。この場合、時間との競争で、応募の締め切りがあり、延期は不可能でした。そのため、神様が働かなければ、完成することはできませんでした。ここに示されたように、神様がお望みになったに違いありません。だから、うまくいったんだと思います。」
アレクサンドラ・Maciejewska、ボーカル

「憐み深い人は幸いである」

1. Wznoszę swe oczy ku górom, skąd
Przyjdzie mi pomoc;
Pomoc od Pana, wszak Bogiem On
Miłosiernym jest!

2. Kiedy zbłądzimy, sam szuka nas,
By w swe ramiona wziąć,
Rany uleczyć Krwią swoich ran,
Nowe życie tchnąć!

Błogosławieni miłosierni,
albowiem oni miłosierdzia dostąpią!

3. Gdyby nam Pan nie odpuścił win,
Któż ostać by się mógł?
Lecz On przebacza, przeto i my
Czyńmy jak nasz Bóg!

4. Pan Syna Krwią zmazał wszelki dług,
Syn z grobu żywy wstał;
„Panem jest Jezus" – mówi w nas Duch.
Niech to widzi świat!

[BRIDGE]
Więc odrzuć lęk i wiernym bądź,
Swe troski w Panu złóż
I ufaj, bo zmartwychwstał I wciąż
Żyje Pan, Twój Bóg!

１．ズノシェ　スウェ　オチュ　グロン　スコ
ジェイジェ　ミ　ポーモツ
ポーモツ　オドゥ　パナ　ウシャック　ボギエ　モン
ミヲシエルニム　イェストゥ

２．キェデ　ボンジメ　サン　シュカ　ナス
ベ　ウ　スヴェ　ラミォナ　ジョチュ
ラネ　ウ　レチュ　クジョ　スヴォイ　ラン
ノヴェ　ジーチェ　クナッチュ

ブウォゴスワヴィエーニ　ミウォシエルニ
アルボヴィエモニ　ミウォシエルジア　ドーストピオ

３．ドゥベ　ナム　パン　ニェ　オトゥプシウ　ヴィン
クトジョスタチュ　ブ　シェン　モウ
レチョン　プシェバチャ　プシェト　イ　メ
チュンメ　ヤク　ナジュ　ボク！

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

４．パン　シナ　クヴィオ　ズマザウ　ヴシェルキ　ドゥク
セン　ツグロブ　ジェヴスタウ
「パネム　イエストゥ　イエズス」　　ムヴィ　ヴ　ナス　ドゥフ
ニェク　ト　ヴィジ　スヴィアットゥ！

[ブリッジ]
ヴィエツ　オドゥシュチュ　レク　イ　ヴィエルネム　バチュ
スヴェ　トゥロスキ　ヴ　パヌ　ズーシュ
イ　ウファイ　ボ　ズマトゥヴィスタウィ　ヴチョシュ
ジュイェ　パン、トゥヴォイ　ボク！

１．目を上げ山を仰ぐ　助はどこから？
いつくしみ深き神　主の元から

２．迷いのときには　主が探してくださる
抱きしめ　この傷を癒し　いのちを吹き込む

※ あわれみ深い人は　幸いである
その人はあわれみを受ける

３．主がゆるしてくださらないなら　だれが耐えられよう？
しかし主は　ゆるしてくださる　わたしたちもゆるそう

４．主はゆるしのため死を身に受け　墓から立ち上がった
霊が語る　「イエスこそ主」と
さぁ　世に知らせよう！

ブリッジ
恐れを捨て　忠実であれ　悩みを主にゆだねよ
信じなさい　主は復活し　生きておられるから

（日本語訳：Fr.暮林＆Fr.ボクダン）

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団 事務局

WYD 2016　守護の聖人

聖ヨハネ・パウロ二世

聖ファウスティナ

いつくしみの使徒、聖ファウスティナと聖ヨハネ・パウロ二世は、ワールドユースデークラクフ大会の守護の聖人です。

聖ヨハネ・パウロ二世

　クラクフとマウォポルスカ（小ポーランド）は、カロル・ヴォイティワ――教皇ヨハネ・パウロ二世――が生まれ、青年期を過ごした場所であり、またコンクラーベ（教皇選出選挙）に参加するためにローマに向かって出発した土地でもあります。彼はしばしばこの地を思い出し、また祖国への巡礼の途で次のように思い出を語りました。「この地クラクフに私は生まれ、人生の多くの時間を過ごしました。そして、ここで、神の謙虚なしもべとなるように神に招かれるという祝福を受けました。その後、ヴァヴェル大聖堂で司教に叙階されたのです。」

　教皇ヨハネ・パウロ二世は、小ポーランドの出身です。この地で成長し、教育を受け、司祭としての奉仕に尽力し、後に1978年10月１６日に教皇に選ばれるまで司教として務めました。ヴァドヴィツェ、ニエゴビチ、クラクフ、カルヴァリア・ゼブジドフスカ、ザコパネで、成長し、大人になり、芸術家となり、最終的に非常に優れた聖職者になりました。

　カロル・ヴォイティワは、1920年5月18日、ヴァドヴィツェに生まれ、中学校まで過ごしました。1938年に父親とともにクラクフに引っ越し、ヤギェウォ大学でポーランド哲学を学び始めました。1942年にクラクフ大司教区の地下神学校（戦時下の非合法神学校）に入学し、1946年11月1日に司祭に叙階されました。その後、ローマに行き1948年まで勉学を続けました。同年、ポーランドに帰国し、クラクフ近くのニエゴビチの小さな教会に派遣されました。その間、クラクフの聖フロリアヌス教会の青年たちと一緒に山にハイキングに行ったり、カヌーを楽しんだりしました。カロル・ヴォイティワ神父の人柄、青年を引きつける話術、そして彼の説教は、多くの人を魅了しました。彼に従う何人かの人々がグループを作り、朝6時から始まる典礼に参加するだけでなく、「霊名の祝日」を祝うために集まったり、一緒に旅をしたりしました。カロル・ヴォイティワはこうした集いにつねに付き添い、皆はいつも彼を親しく「おじさん」と呼びました。始めのころは町を出るくらいでしたが、そのうちにこれらの短い遠足がビエシュチャディ山地での探検やマズ―リ湖でのカヌーの冒険になりました。それはそれまでに行われたことのないことでした。ヴォイティワ神父様はこう語りました。「わたしたちは、本、映画、仕事、科学研究、ジャズバンドなどすべてのことについて、正しい方法で話せるようになる必要があります。」

　それに続く数年間、彼は神学の勉強を続けました。1958年には司教に叙階されました。その直後から第二バチカン公会議の準備と公会議そのものに積極的に参加しました。1963年にエウジェニウス・バジアク大司教が帰天した後、彼はクラクフ教区の大司教になり、4年後に教皇パウロ六世より枢機卿に親任されました。彼はすぐにポーラ

Contents

Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

ンド国内外で、教会の権威ある存在としてのみならず、哲学者、思想家、神学者としても知られるようになりました。

　カロル・ヴォイティワは、クラクフ教区の大司教として、フランチシェフ・ブランク二キ神父が1969年に創立した「光と命」という青年の運動で重要な役割を果たしました。「オアシス」と呼ばれた夏のキャンプの期間中に行われた青年養成は、共産主義政権に目をつけられ、この団体のメンバーは迫害され始めました。多くの司教たちは、教会を守るためにこの団体への支持を表明しませんでした。しかし、ヴォイティワ枢機卿だけは、この団体のクラクフ教区での司牧的活動を公認したので、彼らは活発な活動をすることができました。ヴォイティワ枢機卿は在位中に、クラクフの青年司牧活動も推し進め、学生たちと会ったり、青年のための黙想会を開いたり、赦しの秘跡のために現れて皆を驚かせたりしました。彼はまた、司祭団を非公式に金銭的にサポートしていました。彼からの寄付金は、夏のキャンプの費用として使われたり、困窮している学生に渡されたりしました。
1978年9月にヨハネ・パウロ一世が帰天された後、彼は1978年10月16日にポーランド人として新しい教皇に選ばれました。イタリア人でない人が教皇に選出されたのは456年ぶりでした。ヨハネ・パウロ二世の教皇職はユニークなものでした。
教皇に就任したその日、お告げの祈りの直前に、彼は教皇公邸の窓から最初のスピーチを行い、青年に熱い言葉で訴えかけました。「あなたたちはこの世界の未来です！あなたたちは教会の希望です！あなたたちは私の希望です！」この教皇にとって、青年たちと会うことが最も大切なことでした。彼がワールドユースデーをはじめたのです。

　ヨハネ・パウロ二世は自らの故郷を合計９回、訪問しました。1979年、 1983年、1991年、 1995年、1997年、1999年などです。最後の訪問は、2002年8月に行われました。彼はポーランドを訪ねるたびに、ポーランドの青年たちと会いました。たとえば、クラクフのフランチシュカンスカ3番地の教皇の窓が有名です。

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団 事務局

WYD 2016　守護の聖人

聖ヨハネ・パウロ二世

聖ファウスティナ

いつくしみの使徒、聖ファウスティナと聖ヨハネ・パウロ二世は、ワールドユースデークラクフ大会の守護の聖人です。

聖ファウスティナ

　ヘレナ・コヴァルスカは、ポーランドによくある苗字を持つ普通の少女でした。しかし、実際、他の人を「普通の人」と呼んでもよいのでしょうか。あるいは、単に人を分類するためにこのことばを使うのでしょうか。ヘレナは、だれかに何かを証明しようとしたわけではありませんが、「普通」の人に隠された可能性がどれほどのものかを世界に示しました。可能性は、人々がそれを活かせるかどうかにかかっているのです。

　ヘレナは、赤みがかったブロンドの髪で、そばかすのあるとても明るい中背の少女でした。16歳の時、女中として働き始めるため、家族とともに暮らしていた故郷の村を離れ、町に出ました。彼女は両親に修道会に入ることを許してほしいと何度も頼みましたが、いつも聞き入れてもらえませんでした。しかし、ある盛大なパーティでイエスとの出会いを体験するという信じられないほど素晴らしい出来事の後、自分の心の声に従うことを決意しました。

　ファウスティナという名前は、彼女が20歳で「あわれみの聖母会」という女子観想修道会に入会した時に付けられました。おそらく、彼女は、その名前が「幸い」（ラテン語　faustus）という意味であることすら知らなかったでしょう。しかし、他のシスターたちは、彼女のことを、いつも喜びにあふれ、笑顔で、自分の喜びと幸せをすべての人と分かち合おうとしている人であったと記憶していました。苦しみながら、同時に笑顔でとても幸せでいるなど、だれが考えられるでしょうか。しかし、イエスは、極めて若くして担うことになる偉大な使命のために、苦しい霊的体験を通して、彼女に準備をさせていました。彼女はまず、神のいつくしみ深い愛を知り、どんなに難しい状況にあっても、イエスを信頼し、いつくしみの精神のもとに人生を生きることを学ばなければなりませんでした。それらを身につけたとき、彼女は説得力を持って「神のいつくしみ」を宣言することができました。シスター聖ファウスティナは、その使命を果たすために他にもすばらしい賜物を受けました。イエスを見、イエスと話し、イエスの生涯の出来事に立ち会い、現世を超えた世界を垣間見ることができました。天国の現実だけでなく地獄の現実も見ることができたのです。

　これは、彼女の持つ特別な能力を記した長いリストのほんの始まりでした。この素晴らしい特別な使命を彼女に託すにあたり、イエスはこう言われました。「今日、わがいつくしみと共にあなたを全人類に遣わしている」（日記1588〔ユリアン・ルジッキ、相原富士子共訳『聖ファウスティナの日記、わたしの霊魂における神のいつくしみ』聖母の騎士社〕）。イエスは、彼女の人生、祈り、言葉、行動を通して、ご自分のいつくしみ深い愛に関する真実を告げ知らせる責務を彼女に与えました。日記につづられたイエスのことばは、後の世代の多くの人々にとって光と慰めとなるものでした。彼らは、

Contents

Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

神の顔をいつくしみ深い父として見い出すことができるでしょう。「イエスよ、あなたを信頼します」という文字が記された絵画は、このメッセージを、目に見える形で表現したものです。イエスは、神のいつくしみのメッセージを告げ知らせるというこの驚くべき使命を、修道院で料理したり、庭仕事をしたり、祈ったり、門で働いていたひとりの修道女に託しました。彼女はこの使命が自分の能力を遥かに超えていることを知っていました。しかし、幸いにも彼女は、この道をたどるよう自分に求めたイエスがいつも近くにおられ、自分を決して一人にしておかず、深く愛してくださることを知っていました。そして彼女は、イエスが導いてくださり、ご自分が最良と考える時と方法で、不可能を可能にしてくださると信じていました。あるとき、彼女はイエスのことばを聞きました。「わたしはあなたのような霊魂を探し望んでいるが、わずかしかいない。わたしに対するあなたの大きな信頼は、絶え間なくあなたに恵みを与えるようにとわたしを強いる。あなたは、完全に信頼する娘であるので、わたしの心の上に偉大な、理解できないほどの権利を有する」（日記718〔同〕）。

シスター聖ファウスティナは、33歳の時、クラクフで幸せな死を迎えました。まさに祝福された魂でした。

聖ファウスティナは、神のいつくしみの使徒として、また「日記」という短いタイトルのベストセラーの著者として全世界に知られています。その本は、30か国語以上に翻訳されています。彼女にとって、ポーランドのもっとも著名な作家になるには、基本的な読み書きの知識を身に着けるだけで十分でした。もっとも困難なことは、神を完全に信頼することだったのです。この若きポーランドの聖人の使命は、教皇聖ヨハネ・パウロ二世に引き継がれました。彼は2000年4月30日に彼女を聖人の列に加えるだけでなく、教会全体のために「神のいつくしみの主日」を制定することによってイエスの望みを実現しました。当時、教皇は次のように述べています。「シスター・ファウスティナ・コヴァルスカの人生とあかしが、現代社会への神の贈り物であることを全教会に示すことができて、わたしは今日、真に深い喜びに包まれています。今日この列聖式を通して、わたしは神のいつくしみのメッセージを、新世紀に向けて伝えたいと思います。すべての人が神の真のみ顔と人間の真の顔を、より良く知るすべを身につけられるように、このメッセージをすべての人に伝えます。」

詳細情報：http://www.faustyna.pl/zmbm/en/saint-saustina/

あわれみの聖母会
シスター　ガウディア・スカス

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団 事務局

病気の人のためのWYD

＊ L4とは、病気休暇届けのことです。

病気休暇届け～病とともに生きる人々への手紙～(pdfファイル：266KB)

このプロジェクトは、病とともに生きる人々のためのものです。私たちは、ヨハネ・パウロ二世が示してくださった模範にならいたいと願っています。ヨハネ・パウロ二世は、困難なことや大きな仕事に直面したときに、**病気の人に祈ってほしい**、とお願いしていました。

ワールドユースデーには、運営の面から困難なこともあります。しかし、人々の人生や信仰に顕著な影響を与える大事な祭典であるという面もあります。ですから、カトリック教会のメンバー全員からの霊的支えが必要なのです。憐れみ深い人々は幸い、というワールドユースデークラクフ大会のテーマを、わたしたちのことばと行いで、ともに述べ伝えていきたいと願っています。

私たちは、若いボランティアや小教区の若者の助けを借りて、この「病気休暇届け」プロジェクトを、小教区を始め、修道会、病院、各養護施設やその入居者に届けます。あらゆる年齢層の寝たきりの方々が、ワールドユースデーのための祈りとお捧げを依頼した手紙を手にすることでしょう。そして、この活動がこれからも継続し、小教区で定期的に高齢者や寝たきりの方々を訪問する若者のグループ形成へと発展していくようにと願っています。手紙には、病気の人々のための祈りと、病気の苦しみに負けずに戦っている人々の体験談が記載されています。

手紙の最後には署名欄がありますので、そこに署名して、ワールドユースデークラクフ大会事務局に送り返すこともできます。届いたすべての署名は、このプロジェクトに参加した方々として「祈りの本」の中に収められ、ワールドユースデークラクフ大会の中で、教皇様に手渡されることになっています。

病者の祈り

世界の救い主である主よ、あなたは救いの御血で世の全てを洗い清めるため、御心を剣で刺し貫かれることをお許しになりました。

その御心を、天と地にある全てのものと共に、賛美いたします。

Contents

Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

ワールドユースデーの準備をしている世界中の若者たちを、あなたの愛の泉の中に委ねます。主よ、ひとりひとりをあなたに委ねます。

そして、教皇様にお会いすることで、彼らが聖霊の息吹を受け、ひとりひとりの中に恵みの種がまかれ、善のパン種が芽吹くようにと祈ります。

若者たちの意識を真実へ、そしてその心を、御言葉、秘跡、お互いの交わりの中に表された、あなたの愛へと開いてください。

あなたが始められた業が広がり成長しますように。

彼らの為に、主よ、私の日々の苦しみ、痛み、孤独をお捧げいたします。

世々とこしえに生き治め愛しておられる神の愛の内に、私たちをひとつにしてください。

アーメン。

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団　事務局

2016年 ワールドユースデー クラクフ大会
公式日本巡礼団 運営委員会

参加巡礼者募集

巡礼のご案内

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会 公式日本巡礼団（ポーランド開催）

［Aコース］2016年7月23日(土)～8月2日(火) 11日間
［Bコース］2016年7月23日(土)～8月5日(金) 14日間

鹿児島司教　パウロ 郡山 健次郎

今回の大会テーマは「憐れみ深い人々は、幸いである。その人たちは憐れみを受ける。」(マタイ5-7)です。言葉と行動で愛を生きておられるフランシスコ教皇らしい設定だと思います。

私たち日本人にとって「憐み」という言葉は「同情」と同じ意味合いを持っているので、「愛」ほど親密に口にすることはないように思います。この信仰を取り上げた教皇の真意は何だろうという問題意識を持ちながら、「世界の若者と出会う巡礼の旅に出よう」と呼びかけたいと思います。日本の大学生たちにとっては、必ずしも参加しやすい期間ではありませんし、また働く若者たちにとっても長期の休みの確保が難しいという問題もあるかもしれません。しかし、聖ヨハネ・パウロ二世誕生の地での開催ということもありますので、この機会にぜひ参加していただけるようお勧めいたします。

パンフレットダウンロード　(pdf:2.27MB)

◆2016年　ワールドユースデー　クラクフ大会 日本巡礼団　参加申込書◆

記入日：　年　月　日

提出期限：２０１６年 ４月１２日（火）まで　【提出先：HIS FAX:03-5219-3092】

（パスポートのコピーを、本申込書と合わせて提出してください。）

ふりがな		男・女	（パスポートに記載されているローマ字を下記に記入） 姓　名
氏　名			
生年月日	西暦19　年　月　日生（満　歳）	国　籍	□ 日本　□ その他（　）
ふりがな	〒　－		
現住所			
自宅電話番号		自宅ＦＡＸ番号	
携帯電話番号		Ｅメールアドレス	
ふりがな	〒　－	お名前	（本人との関係：　）
渡航中の国内緊急連絡先	TEL　FAX	携帯	
ふりがな		学部・職業	
大学名または、会社(団体)名		学　年	

※下記の事項については、漏れなく記入もしくは、該当箇所にレ印を記入のこと。

巡礼コース　□ Aコース（2016年7月23日（土）～8月2日（火）－ 11日間）
□ Bコース（2016年7月23日（土）～8月5日（金）－ 14日間）

参加申込書ダウンロード　(pdf:110KB)

Contents

Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団 事務局

WYD コンセプト

WYDとは？

ワールドユースデーは、世界中の青年がイエス・キリストにおける信仰を表すために、教皇と司教、司祭、カテキスタと共に1つの場所に集まる国際的な大会です。

誰がWYDを始めたのですか？

ワールドユースデーの創立者、最初の呼びかけ人は聖ヨハネ・パウロ２世です。彼は、ローマ(1984, 1985, 2000)、ブエノスアイレス(1987)、サンチャゴ・デ・コンポステーラ(1989)、チェストホーヴァ(1991)、デンバー(1993)、マニラ (1995)、パリ (1997)、トロント (2002)に青年を集めました。

WYD - 教皇と青年と共に

聖ヨハネ・パウロ２世が死去し、教皇ベネディクト16世が教会と青年の間のこの美しい対話の後継者、ワールドユースデーの偉大な擁護者となりました。彼はケルン (2005)、シドニー (2008)、マドリード (2011)の大会を主催しました。教皇ベネディクト１６世の働きにより、世界中の青年によってキリストが絶え間なく告げられ、礼拝されてきました。そして、教会はその若々しく喜びにあふれたイメージを伝えることができました。それは、現代の世界が何よりも必要としていることです。

2013年、教皇フランシスコはリオデジャネイロで青年と集いました。そして、次の大会を2016年にポーランドのクラクフで開催すると発表しました。

「トライアル」大会

最初の２つの大会（1984と1985）は、「あがないの特別聖年」(1983-1984)と「世界青年の年」（1985）に開催されましたが、まだワールドユースデーという名称ではありませんでした。しかし、これらの出会いは、現在に至る恵み豊かなプログラムを行う上での動機を教皇に与えました。

WYDの創立

1985年12月20日がワールドユースデーの創立記念日とされています。ヨハネ・パウロ２世は、枢機卿と教皇庁の職員とクリスマスのあいさつをかわしているときに、教区の集いとして毎年ワールドユースデーを枝の主日に行い、２、３年ごとに彼の指定する場所で国際大会を開催したいという願いを明らかにしました。

共同体、養成、信仰の喜び

ワールドユースデーの目標は、普遍教会という偉大な共同体を体験し、みことばに耳を傾け、ゆるしの秘跡と聖体の秘跡を受け、救い主イエス・キリストを喜びをもって告げ知らせることです。

Contents

Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

WYDのシンボル：十字架とイコン

大会には、聖ヨハネ・パウロ２世から贈られた二つの特別な贈り物が同行します。ワールドユースデーの十字架と聖母のイコンSalus Populi Romaniです。これらのシンボルは、ＷＹＤ大会中に青年に同行するだけなく、世界をめぐり続け、数百、数千の人々を日々、祈りと礼拝のために集わせます。
ワールドユースデーの十字架と聖母のイコンは、2014年4月13日、枝の主日にローマで教皇からポーランドの青年に渡され、ポーランドと東欧州諸国の教区を巡り始めました。

WYD - テーマに基づく大会

各ＷＹＤ大会にはテーマがあり、若者は言語グループや国ごとの集まりで、そのテーマについて黙想します。テーマは、教皇が選びます。ＷＹＤ世界大会の期間中、カテケージスの3日間と呼ばれる3日間に渡る大会の間、そのテーマが練り上げられます。

WYDの期間

ＷＹＤは数日に渡るイベントです。現在、2つの重要な要素があります。第一の要素である「教区での日々」には、若者が開催国の様々な地方に滞在します。第２の要素である「本大会のイベント」は、開催都市で1週間行われます。

「教区での日々」の目的は何ですか？

「教区での日々」の内容は、ホストとなる各教区の特徴とライフスタイルによって決まります。それは、友情、分かち合い、一致、地域の文化になじむための時間です。旅行、一般的なゲーム、主催者の用意する様々なイベントやプロジェクトにおける社会的交流などが行われます。

WYD本大会の内容はどうなっていますか？

すべての参加者は、「教区での日々」を終えると、中心的なイベントに参加するために、教皇によって選ばれた開催都市の教区に向かいます。青年は開催都市に一週間、集います。月曜日に到着し、火曜日に開会式に参加します。水曜日、木曜日、金曜日は、カテケージスとユース・フェスティバルに参加します。土曜日には、夕べの祈りの会場まで巡礼し、教皇との夕べの集いに参加します。日曜日には、ＷＹＤを締めくくる派遣ミサに参加します。主要なイベントには特別な会場、「赦しの秘跡」と「召命センター」が設けられます。

重要な注意事項

ＷＹＤへの参加は約2週間ですが、参加者はこの大会には霊的及び組織的な準備の期間が必要であることを覚えておかなくてはなりません。ＷＹＤの本当の期間は、参加の決心をした時から始まり、ＷＹＤから受けた使命を果たした時に終了します。

WYDの参加者は何名ですか？

通常、大会には大勢の信徒が参加します。1週間の全参加者の平均は数十万人です。しかし、土曜日の教皇との夕べの祈りの参加者は、百万人を超えます。これまでの最大の大会はフィリピンのマニラ大会（1985）で、400万人の巡礼者が集いました。ブラジルのリオデジャネイロ大会（2013）ではコパカバーナビーチに300万人以上が集いました。ヨーロッパでの最大のイベントは2000年のローマ大会で、218万人の青年が聖ヨハネ・パウロ２世と共に祈りました。

青年と同伴者

青年だけでなく多くの司教、司祭、修道者、神学生、修練者、若い教師や大学教授などもＷＹＤに参加します。ヨーロッパで開催された最近のＷＹＤ（2011マドリード大会）には、800名の司教、14,000名の司祭、数千人の修道者が参加しました。

WYD 2014-1016

2014年第29回ワールドユースデー、教区テーマ

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。（マタイ５：３）

2015年第30回ワールドユースデー、教区テーマ
心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。（マタイ５：８）

2016年第３１回ワールドユースデー、クラクフWYD大会
憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。（マタイ５：７）

あなたは招かれています　－　ひとりぼっちではありません！

共同体を体験することは、ワールドユースデーに参加することの最も大切な実りの一つです！他からの誘いを待っていてはいけません。このウェブサイトをみつけたのですから、招待を受け取ったと思ってください。クラクフでの出会いのために、各小教区で準備をしている多くの青年に合流してください。

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団　事務局

WYDのシンボル

ワールドユースデーには、2つのシンボルがいつも同行します。聖年の十字架と聖母のイコン「Salus Populi Romani」です。ワールドユースデー大会期間中、これらのシンボルはメインイベントの会場に飾られます。また、準備期間中には大会の開催国を巡ります。これらのシンボルは、ワールドユースデーの真の「目的」を次世代の青年たちに示しています。それは、あがないの神秘のうちにイエスをより深く知ることと、聖母の保護に身をゆだねることです。

「青年のみなさん、この聖年の終わりに、聖年のしるしであるキリストの十字架を皆さんに託します。この十字架を、キリストの人類への愛のしるしとして世界中に運んでください。そして、キリストの死と復活においてのみ救いと罪のあがないがあることを、すべての人に伝えてください。」

1984年4月22日　ローマ　ヨハネ・パウロ二世

十字架

現在「ワールドユースデーの十字架」と呼ばれているこの木製の十字架は、1983年に「あがないの聖年」（1983年3月25日～1984年4月22日）の開始を祝うために制作されました。聖年の開始ミサの時に、青年たちがサンピエトロ大聖堂にこの十字架を運び込み、聖年の間、そこに置かれました。この十字架は聖ペトロの墓の隣に置かれ、その後の祝典やバチカンを訪れた巡礼者グループを見守りました。その中には、教皇から招待された活動団体や共同体の若い代表もいました。

青年たちは、聖年が終わったらその十字架を自分たちに渡して欲しいと教皇に願い出ました。教皇はその望みを聞き入れ、復活祭の日に、聖年の十字架を青年に託し、次のように述べました。

「聖年のしるしであるキリストの十字架を皆さんに託します。この十字架を、キリストの人類への愛のしるしとして世界中に運んでください。そして、キリストの死と復活においてのみ救いと罪のあがないがあることを、すべての人に伝えてください。」

この出来事は、世界への十字架の旅の始まりとなっただけでなく、ワールドユースデーの前触れでもありました。この十字架は出会いであり、あがないの神秘を青年たちが初めて個人的に体験する瞬間でもあります。その後、青年たちはそのことを世界に、そし

Contents

Home
WYD2016スケジュール
WYD2016のテーマ
WYD2016の祈り
WYD2016のロゴ
WYD2016テーマソング
WYD2016守護の聖人
病気の人のためのWYD
参加巡礼者募集

WYDの歴史
WYDのコンセプト
WYDのシンボル

WYDクラクフ大会
公式日本巡礼団
facebookページ

て自分たちの仲間、家族、社会の人々に伝えました。したがって、最初のワールドユースデー（今では教区内で祝われている）は、復活祭直前の「枝の主日」に行われることになりました。

青年たちはまず、この十字架を自分たちの場所（サン・ロレンツォ青年センター）に持ち帰りました。この青年センターは、ヨハネ・パウロ２世によってバチカンに設立されました。そこが十字架の本拠地となり、さらなる旅路へと青年によって運び出されました。最初はドイツのカトリックデー（1984年）に、そしてその後、他のヨーロッパ諸国に行きました。1987年には、ブエノスアイレスで第2回ワールドユースデー（初めてイタリアの外で行われた大会）が開催され、初めてヨーロッパを出ました。これが、世界中をめぐる十字架の巡礼の始まりでした。

今日まで、この十字架はすべての大陸で飾られてきました。その中には戦争や紛争に直面している国々も含まれます。青年たちは礼拝堂、宗教的イベントの会場、そして信仰をあかしする示す必要がある場所にはどこにでも十字架を運びました。ニューヨークの世界貿易センタービルが襲撃され現場で、また残虐な内戦に苦しむルワンダ国内で、この十字架のもとに祈りがささげられました。国連の支部や、小さな学校、病院、刑務所なども訪ねました。

2014年4月14日以降、この十字架と聖母のイコンは、ワールドユースデーの準備をするためにポーランドの教区を巡っています。

神の母のイコンSalus Populi Romani

聖母のイコン「Salus Populi Romani」は、イタリアで最も崇拝されている聖母マリアのイコンです。「ローマ市民の救い」という名前は、ローマの住民が腺ペストに苦しんだ6世紀の終わりの出来事に端を発しています。590年、聖グレゴリウス1世は嘆願の行列で聖母のイコンを掲げ、聖母に町の救済を願いました。その時、彼は空に天使を見て、刑罰のための剣を鞘に収めました。そのあとすぐに疫病は収まりました。

今日、この聖母のイコンは、その恵みのために多くの人々に知られるようになり、サンタ・マリア・マッジョーレ聖堂に飾られています。この教会は、ローマの人々がさまざまな祈りのために巡礼する場所です。教皇フランシスコは、「サンタ・マリア・マジョーレ」において使徒的訪問を始め、終えること恒例としています。

ワールドユースデーに聖母のイコンが最初に登場したのは2000年の大会です。イコンの複製が、トルヴェルガタ大学に設けられた教皇の祭壇に飾られました。

3年後、「教区での日々」の間に、教皇ヨハネ・パウロ2世は、マリアを通してイエスにもっと近づくよう青年を促しました。2003年の世界青年の日のメッセージでは、こう説明しています。「マリアは、皆さんがイエスとの、より真実で人格的な関係に入るよう助けるために、皆さんを訪れます。マリアは自分の模範によって、イエスの上に愛の視線を落とすことを教えています。イエスは、まずわたしたちを愛してくださった方です」。この大会期間中に、教皇はこのイコンの複製を青年たちに与え、それが十字架と共に世界中をめぐるよう望みました。そして、青年たちに「すべてはあなたのものです（Totus Tuus）」という遺言を残しました。この言葉の意味を、それ以後の世代の青年はワールドユースデーの聖母の足元で学んでいます。

「しかし、次のことを知っておいてください。だれの人生にも存在する困難のとき、皆さんは一人ではないということです。十字架のもとにいたヨハネになさったように、イエスは皆さんにもご自分の母を与えます。なぜならイエスは、その優しさで皆さんを強めてくださるに違いないからです。」

Contact Us

2016年ワールドユースデー
クラクフ大会
公式日本巡礼団　事務局

〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
日本カトリック会館

TEL:03-5632-4480
FAX:03-5632-4465
E-mail: wyd@cbcj.catholic.jp

ワールドユースデー2003　聖ヨハネ・パウロ二世

これらの二つのシンボル、十字架と聖母のイコンは、毎年、遠くまで旅をします。世界中の青年たちがイエス・キリストと出会い、それらの中にある希望に気づくことができるように。

© 2016年ワールドユースデークラクフ大会 公式日本巡礼団 事務局